

《目標》弓道を通して人間性を磨く

弓道を通して社会性を養い人間性を磨く。立派な社会人の礎を築くことこそが最高目標

- ◇信義敬…信（信頼関係。約束を守る） 義（正しい行いに努める） 敬（己を慎み、相手を敬う謙虚な心）
 - ・明るく挨拶返事がしっかりできる。弓道を知らない人が見ても「立派だな」と言われる行動や態度。
 - ・感謝の心と思いやり
 - ・校長先生をはじめ先生方・業務員さん、家族・保護者、OBの方々に感謝の念を忘れないこと。
 - ・弓道ができることに感謝
 - ・相手の立場に立って物事を考えられる。

◇人間関係

後輩は先輩を慕い、先輩は次の世代を担う後輩を、心を込めて育てる。仕事は先輩が率先して。後輩は先輩に仕事をさせてはいけない。

◇継続力

- ・選手になれたそうでなかったという事よりも、最後まで精いっぱい続けることが何よりも大事。胸を張って「3年間・6年間がんばった」と言えることが、後の人生の宝物となる。
- ・「やめたいな」と思っている時が最も成長している時
- ・最後まで頑張る人には必ずチャンスが巡ってくる。
- ◇勝ったときが一番危険。油断して次の負けにつながる。負けは成長糧。悔しさやみじめさは胸にしまって自分の責任と反省して行動できて初めて大きく成長できる。

◇基本的に弓道部は部長を中心として、自分達で運営する。

- ・一人一役、全員の実力が向上して初めてレベルアップ

《一流選手の条件》

◇高い目標があること。…目標なくして成長なし。豊富な練習量

◇日常の学校生活が第一…日常の生活が全て弓道につながる

- ・勉強第一、委員会活動・クラス活動をしっかり行う。
- ・宿題等当たり前前の事を当たり前前にできる
- ・「土壇場の1本」が日常の生活と繋がっている。

◇怪我・病気も実力のうち。毎日の積み重ねなくして勝利なし

◇探究力

- ・基礎基本がしっかりしている…指導を元に、自分で考え工夫稽古ができる
- ・真実を追求する姿勢…枝葉末節にとらわれず一番大事な本質を追究する姿勢。「当てる射」ではなく、「中る射」を目指す
- ・最後まで納得いくまでやらないと答えが出ない。

◇自分のランクを勝手に決めない

- ・3年目で花開く選手もいれば、1年でダメになる選手もいる

◇最後まで諦めない

- ・自分の限界を超えた所に成長がある。もうだめだと思った時のひと踏ん張り道が開ける

◇自律

- ・試合の時は記録を見ない
- ・的中を気にして一喜一憂するための試合ではない。大会こそが人間成長の場。勝つ事よりも誠を尽くす事が重要。自分の射に専念し、相手の射が気にならないほどの集中力が求められる。

《弓道は誰にでもチャンスがある》

◇体力に合った強さの弓を使うので、身長の高い低いとか、体格・筋力・運動能力等は関係なし。

中学時代文化部だったが、全国大会に出場した選手もいる。要はやる気次第。

《東桜学館弓道部五カ条》

- 一、高い目標があること
- 二、日々努力していること
- 三、最後まで諦めないこと
- 四、支えてくれる人に感謝
- 五、団結力

柴田猛範士より	
○一流選手の六条件 素直・やる気・情熱・ 創意工夫・理念信念 強運	○四つの慣れ 道具になれる・的に慣れる 道場に慣れる 人に慣れる
○上達の三要素 見取り稽古・工夫稽古 数稽古	○勝利の四条件 絶対の自信・平常心・監督との絶対的な信頼・運